

人の一生をはるかに負かす遠き道を行くが如く、急ぐからず。

あれは駿河の富士だと云ふので、駿河電を言つて貰ひたくなへでのんし俺は
の富士と言傳へて居るんだが自分の國越後の者だが、俺が國には春日山に上
りかねが富士を取りたがつてもさうは 杉浦信樹と云ふ俺がある、先
にば「エ」オ「エ」甲州の地方、さうは 黒つて聞て居れば信安様は傳へ偉
うた前さんのやうに竟つばい事を言つへと云ふけれども、頭を圓めて坊さん
てもいけれエ俺は江戸だけれども、是で居ながら、五逆八國の大罪を犯した
は駿河の地方の云ふ方が道理だ、三國の爲に戦つた、俺が國の上村信玄様は
一と云ふけれどモッア一口に駿河の富義の爲に戦をなされる方で、武田信玄
と云ふし、江戸の富士様の見える所、前後十八年の間川中島で戦をした、

第三、(五) 京城の電鐵及公園

舊城に王妃の血、
西門の外、流れける、
邪宗の血とや、
非ざる、疊なる
古の壁、
いろ／＼に公使館、
どがり立つも、
空の端、
高き鼻、
ポブラにかくる。
雨風の、

朝鮮人個人取引の大決済期たる
も毎日の間に迫りたる昨今に於

心は早やも、
支那のふなりは、
低徊の我、
町行けば祖國戀し、
草色の被衣乙女、
いくにんも、
すれ違ふ。

仁川 たひ家丹藥社
△素見▽…………… (二)

仁川 たのき子舞抄

△素見▽ (二)

七草や 鬪子外づれて下女の笑
イヤモウに三式の女性はお懐の崩れ
たのにも笑ふのが特色！只の十七字
珍でもなければ猶でもなし、中々た
かしからずフ、ハンの
春駒や 御苑を充る 鬪の子
ハナニ 則て!! 露の子咄!! 流るる!!

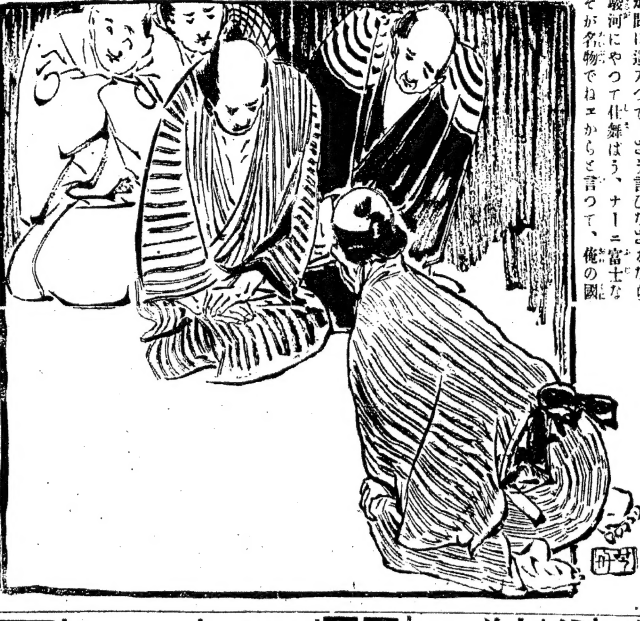
又清川江は冬期に於ては結氷し、運輸の便にのみ依ることなるも

ひ且つ舞ふ、是を名附て春駒と云ふ。都鄙共に有り、之は禁中にて毎年正月七日に白馬御覧の事あり、是を下々にうけて真似侍る也。と讀み去り讀み來るとドウヤ、勝手が遠ふ春駒活き馬の様で、然かも下五の春の駒と来てはいよいよ、以て和唐なくなると、是も又聞の手に、は、些で？。

四三

「モシ、駿河の方私の國の
と、富士の山をさう自分の

桶狭間「千鶴」と云ふ所であんな情けな
エ死に様をうて、味噌を附けたちやア時に、小栗大藏と云ふ奴が鐵砲を持て
ぬえ、でんがくばだか、味噌を附け、向つた時に、馬の上から、奴が鐵砲が之を
た踏ちやアなからうが、俺の國の信玄、切落し、愈々信玄の側に進み來つた時
様と來たら、日本の司矢の事と言はれた、原大藏と云ふ者が、讓公の乗つ
た天上天下唯我獨尊、誰が何と言つたに居た法性月毛と云ふ馬の尻を突いた
つて信玄様、實に偉い人が一人だつてあり、何處の軍に乘つて居る馬の奴が、あ
はしね、敵に降へるものだつた惡入るものか、甲州者は伊豆法に願左衛門
つたらう」と胸を叩き、腕を振廻して舞ひの如く、切下した時に、信玄が軍配、馬
に破れて、後から顔を出した奴で受止めたけれども、掌がうて、切つ
後が、越へし甲州の人情ながら居た七狐の前主、龜田法性の兎へて、彼
本の弓矢の輩で信玄様より強へものは、其内に法性月毛と云ふ馬が獨立
なへ、負けた事がねへなぞと、餘り大に成つたもんだから、其腹に信玄は逃



有銘茶各種新物續々入荷付に
御小買さるも大勉強仕候備多少
不費御金願上矣

撰精場本

茶

仁川本町四丁目一府臨通
田中芳春園
電話 四九〇
特振京通五〇二一
胃腸病のうめん
救済を企む
にせ物御注意

振替大坂七七八

猪飼

定價十米廿米廿米
五十米一円
本舖 大阪江戸区
猪飼史郎

恩給
 年金低利長期契約即
 時立替營業開始仕商
 全部分門
 大門口取牌可申換
 全部繼承致速且無切
 京城樓并町八四

京城本町六丁目(元取司合部通り)
金井眼科醫院
 電話一五五六番
 西院眼科部長 金井豊七郎
 所賣煉瓦發表類、日本鋪塗料

頭
專 門

鼻咽喉氣管病醫院
電話一七〇九番
石田誠
院長 室賀良
十二時
六時
日曜祭日午後二時迄

町三丁目
鈴木外科病院
院長鈴木謙之助
断法ヲ行(六百六號注射應需)

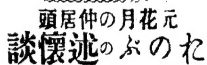
軍醫士植利
高井貞治

重ねた臺の數に氣も心も浮き立つた重女^{ぢやう}の調子は華やかに音^{おと}を使ひも慥^{しやう}しが脱^{だつ}げてトモするど地金^{ぢきん}が出る話^{はなし}に油^{あぶら}が加つて来たのだ「某時代」に一番爲めに成つた客様は總務長官の鶴原



(其の八)

元月仲居頭
のぶの述懐談



「多いのです、少々私も人が悪かつたかも知れません、御一人さんと頭本さん——大抵は両方は御一緒でしたと頭本——などが入れ来に成て皆様の……」

「統監府のね仲間が如何に話を仕たかを聞きたがつてですが『初めの間はイ、エ、其様は唯は承りません』と申上げて居ましたが考へて見るに夫れ何程かにならぬ事と一つ二つ好加減の事を申上げたのですよスルト即座

て清酒を飼へさせ直ちに是れを花園町に
本店に十一圓にて入質し一月四日本
町六丁目森を借り受け主人の名義にて
蒲團一日を借り受け翌五日是れを本町
七丁目近商店店に入質して四圓を借り
受け費消したる次第なり

●水席やん茶の失踪

今は昔米代が替へた時の貴用つか
時代の物掬にあつて大に表脱を振つて
居たやん茶阿や而面白からぬ様目に陥
り糞土やん茶費やの手前には故郷へ歸り
て申婚したるを眞に受けた連中へ派
り

見た所の將來をうきと云ふ見込がな
 別はイッタン今の間に見えつたが上
 思つたのと見へ流れて了つたのを
 でん茶屋の間にさしみの色を現
 はした野邊の送りと云ふ奴を手に
 後には月五十圓位の仕立てを受け
 小説を友としての閑日月を送つた所
 至極上出来たつたが好事魔多し越中羅
 向ふから友としての閑日月も御幸
 遊ばせ小説を友としての閑日月も御
 當金の五十圓なるものが間違ひなく
 つてこなれで、左様で、然
 此三月民の手許不如意、

●春に腹は替へられず 福岡縣人常時明
治町三丁目七十番戸國吉太郎、一方同居
方木友近（こ）は元本銀九百日宗良、常吉木
方に雇はれたる者なるが一月八日、不意に
都合の廣ありて解雇され、ブラ／＼して
居る中、フト惡心を起し、一日午後四時
許、作圖一丁目木、齋谷のみね方に赴き、
眞の使ひと稱し、主人が買物に出でる
も少々金が不足なる故、一圓五十錢だけ
貸して呉れ、とのこと、みねは云々、と
僅に貸し、其後夫の龜太郎が二度宗良
方に行き、も亦木の姿が見えざるより
不審を起し、前記の水郷を物語りしかば

六日東大門分署で死刑三十人に
 無罪大夫人に於て未だ其節の許可
 受け居らざる尾見(一)に客を取
 れたる大和縣地署警備の山田あさ
 の兩名は六日南都署に於てあさは拘
 十日きくは同五日に處せらる
 仁川のボレヤ 仁川手廻二丁目
 仁川橋上高橋長は六日午後四時
 本町二丁目より同所へ歸途中舘渡財太
 八二十圓九十錢入りをツインソ

三菱 三菱合資會社石炭部
 朝鮮代理店
 泉商會
 京橋長谷川町二丁目

多い。是に於て此を能くするに嫉妬は婦人より男に多いと見へる。如何となれば男安居に此れ大けの婦人が来た事がない、來んのぢやない來さぬのだ。が是は女安居だから危險がなない云ふので、女から開放した結果だ。併し又一面から云ふに閑寂の淫氣が子を證立てるものとも見ることも出来る、油斷ならないもの豈に小娘のいならむや大袋などとも油斷はならないのだ。モ一考其體がある、見る程の女が悉く大口開いて何物かをバク

概業營

- △各國時計及附屬器具類
- △貴金屬美術品類 △歐米自轉車及歐美各種稱爲異機及機器 ▲金銀珠寶

織居商店

振替口方
時計部三二九
寫真部電三六二

[illegible]

りん病患者に警告は
サントールが癩病に特效ある事は全
滿天下の認識されたる處なり而かも
癩は初より兎大癩癧の廣告を爲さず
其卓拔なる藥効に倚賴して一般の
用を博するに至れるは癩店の誇とさ
る處なり
抑も癩病の如き疾患は其癰癰の
者自身に於て直に輕快を自覺する
に由り容易に判斷することを得ず
以て何人々雖も之を察じに由なし而
して上癩病の特效藥と稱するもの
に迫あらずと雖も獨り
サントールが其名聲を損にする所以

[illegible]

泉溫るい能効

鐵冷溫泉

旅館並に浴客席貸

京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行北横手)

廣安喜次郎

電話一四二番

造釀仁吉(電)

世界無比

清酒

厚良

金露

標商 註冊

萬民之

常飲之

○界大豪の金露酒は今改良に付て濃
造酒のみを用ゆる事にせられたり
○大豪醸造場の金露酒は衛生に經濟に嗜好
に社會に於ける一大良得品
○京城に於ける金露特約販賣店の元祖は佐
藤牧商店なり
○大豪金露酒最近中味改良の結果實制高丈
多數を占めたるは佐藤牧商店の
割り御得意にして中味改良の證として大
割り御價を以て御注文に應じ可申候

特約 大販賣

京城本町一丁目

佐藤牧商店

電話二九番 振替京城二九番

磨擦白米

龍崗山標
香港新豐城
電話一三一三